

第1回 標準化とアカデミアとの連携に関する検討会 議事要旨

1. 日時：令和5年10月30日（月）16：00－18：00
2. 場所：経済産業省 別館8階 834・838会議室（「Microsoft Teams」を用いたオンライン併用）
3. 出席者： ■椿委員、■岩田委員、上野委員、鈴木委員、野田委員、立本委員（代理藤田様）、藤本委員、■松橋委員、本吉委員、吉田委員、武重委員
（全委員15名中、本人出席10名、代理出席1名、オンライン出席者は■印）

4. 議事要旨：

（1）本検討会の議事の運営について（説明者：事務局）

事務局推薦にて、椿委員の座長就任について伺い、全会異議なしにて、座長就任が決定された。

（2）標準化とアカデミアとの連携に関する検討会の設置と進め方について（説明者：経済産業省）

委員からは、標準化活動におけるアカデミアの参加の重要性が高いことと、その参加方式が属人的な傾向があることからアカデミアの参加のサステナビリティを確保するためには人材育成とアカデミアの成果指標が課題として挙げられた。以下、主要な発言。

- ・ アカデミアの方々が中立的な立場として委員や委員長を務めていることは重要である一方で、各団体は、アカデミアの参加方式で苦勞している。同じ先生が名誉教授になってからも参加の継続をお願いすることになり、新たな先生に引き継ぐ体制になっていないというのが実感であり、その対応策は重要。属人的でない人材育成などについて期待している。
- ・ 研究成果を標準へ結び付けていくことも重要であり、SIPなど最近特に力を入れていると聞いている。アカデミアの成果指標として標準化も検討していくことが重要である。
- ・ 中国はアカデミア、海外は産業界の委員長が多い印象である。
- ・ エネルギー・資源学会では、アカデミアに加えて多様な産業界も参加しており、同業がいても一緒に視察を行うなど異業同舟で動いている。前向きな攻めの標準戦略として産業界も含めて示すには、学会という場がよい。モデル事業をエネルギー・資源学会で実施したい。
- ・ 先日来、標準化に関する学会連携の重要性が増してきており、学会内においても、そうした話が出てきている。

（3）標準化人材育成検討委員会について（説明者：立本委員（代理藤田様））

委員からは、標準化戦略、標準化開発、規格開発の作法（例：ISO directives）について、全国で学べる教育プログラムのモデルカリキュラムを作るチャンスであり、数理・データサイエンス・AIのように文理問わず参照ができるようになることへの期待感が意見として挙げられた。以下、主要な発言。

- ・ 教育プログラムの立ち上げは、理事や学長への説明が大変。教育プログラムは12～14単位が必要で、単発の講座ではなく、複数の講座がプログラムとして構成されているべきということになる。

- ・ 各団体から、職員が高齢化して、JIS Z 8301 や ISO directives など規格開発のノウハウが失われるという課題を聞いている。
- ・ 受講証明書について、それを取ったメリットや、どのように使われるかも検討するとよい。
- ・ 筑波大学で開発した教育カリキュラムは、筑波大学で来年度または再来年度に実施するのか？
- ・ 工学・マネジメント分野について、知的財産権の取得・論文掲載と、標準化が同列に位置づけられることが重要。東工大の標準化戦略型の講義、長岡技科大の標準化開発型の講義が定式化されたうえで、筑波大学のモデルカリキュラムが設計できれば、全国の工学系、経営系の大学に展開出来るのではないかと。モデルカリキュラムが持つ意義を強めていただきたい。
- ・ 数理・データサイエンス・AI に関する講義については、モデルカリキュラムを提供して、各大学で文理を問わず必修化するような試みがなされている。今回の標準化教育プログラムについては、標準化のためのモデルカリキュラムが作られるチャンス。若い方や産業界の方も参照可能になると考える。

(4) 標準化人材情報 Directory について（説明者：経済産業省）

委員からは、データベース（以下、DB と表記）が有益であることと同時に、今回は規格開発交渉人材が中心となり対応はその先となる戦略人材について、育成プログラムとの関連が指摘された。また、DB として個人の紹介だけで終わらず、その後のやり取りまでフォローアップした取組の重要性と、戦略・規格開発交渉・普及の人材の分類について、個人としては明確に〇〇人材として分けられるものではないため、見せ方の工夫が必要との意見があった。経済産業省からは、人材斡旋や仲介をするものではないことが改めて示された。以下、主要な発言。

- ・ 若いホットな事例を以て授業を行っていただけの方を探すなど、このような DB は有益。また、データベースの見せ方も重要。加えて、紹介だけで終わらずに、その後のやり取りのフォローも重要。
- ・ 標準戦略人材は企業として関心がある。戦略人材が少ないため、これから戦略人材をどのように増やし、アドバイスを受けやすい環境を作っていくかが重要。個人をうまく活用できる環境を作るとともに、育成を評価できる仕組みができるとよい。
- ・ 産業界向けの講師としては、産業界の経験があるアカデミアだと安心するとの意見もある。
- ・ 育成プログラムと DB は密接に関連する。
- ・ 今回は規格開発交渉人材をターゲットにした登録項目ということだが、求められるスキルを定量的に表していると認識した。戦略人材の場合だと、登録項目が追加・変更されていくだろうが、どういふ検討になるか興味深い。
- ・ 戦略人材、規格開発交渉人材、普及人材と DB 最上流で分かれているように見える。同一人物で 8 割は戦略人材、2 割は規格開発交渉人材など複数の特性を有するケースもあるのではないかと。
- ・ 登録項目とスキルの定量的項目を挙げてもらえると、教育を考えられる。合わせて、こういった登録項目とスキルの設計について説明できる講師やその内容について話せる講師を DB にしてもらえるとよい。
- ・ 外注人材の可視化により、請ける側と発注側の利便性を上げたい。

経済産業省が人材斡旋や仲介するものではないので、実際に支援や講演を求められる場合は、有償無償にかかわらず、当事者である個人や組織が直接に契約等をしてもらうことになる。

(5) アカデミアとの連携策検討に向けた学会等のヒアリングについて（説明者：事務局）

委員からは、標準化に関する学会連携の重要性が増していること、ラウンドロビントテストは既に学術論文になっており評価に繋がっていることの情報提供があった。アカデミアが標準化活動に参画することを評価してキャリアアップにつながるように、大学での評価制度や国研との協力の方向性を示すヒアリングになることの期待感が意見として挙げられた。以下、主要な発言。

- ・ Versailles Project on Advanced Materials and Standards (VAMAS) は、40年の活動歴があり、論文を含む数多くの出版物を出している。ラウンドロビントテストの報告はVAMASから出る論文の典型例。論文であれば、活動に寄与した研究者の名前を列挙できるので、学術分野における評価に繋がやすい。
- ・ アカデミアが連携しやすい環境を作ることは、攻めの標準化に寄与すると感じる。アカデミアの業績として評価し、キャリアアップにつながるように、大学での評価制度や国研との協力の方向性を示すヒアリングに期待する。

(6) 大学技術移転協議会 (UNITT) ・産業標準化事業表彰特別シンポジウム報告について

(説明者：経済産業省)

経済産業省から資料に基づき説明とともに、今回欠席の澤井委員からの本議題に関する意見書の紹介があった。委員からは、国益・産業競争力の観点で攻めの標準化が重要であり、アカデミアの協力も重要であることと、アカデミアにとってもメリットがある方向性にしたい旨の意見が挙げられた。

以上